

8. この地域の自然に関する説明に一つずつ間違いがあります。それはどれですか。記号で答えなさい。

(61) 植生

- (イ) この地域の植生は、神宮林に代表される。
- (ロ) 神宮林は、神宮スギ、ツブラジイ、オガタマノキ、クスノキなどの常緑広葉樹と針葉樹が混交している。
- (ハ) ヒノキは、代表的な常緑広葉樹である。
- (ニ) 古い時代には、この地の大部分がシイ、サカキなどを中心とする暖帯性広葉樹で覆われていた。

(62) 鷲嶺

- (イ) 伊勢志摩では朝熊山に次ぐ高さがある。
- (ロ) 頂上部に石灰洞がある。
- (ハ) 石灰洞は、三重県の天然記念物に指定されている。
- (ニ) 中里介山『大菩薩峠』では、剣豪の修業地となっている。

(63) 破石

- (イ) 二見町三津の南方にある。
- (ロ) 周囲 20m 高さ 4m の巨石である。
- (ハ) 中央部で縦割りに二分されているのでこの名がある。
- (ニ) 離れ岩の節理に樹木が根を下ろし、その成長で割れ目を拡大し、その後樹木が枯死したと考えられる。

(64) 大仏山

- (イ) 伊勢市小俣町と明和町、玉城町にまたがる丘陵である。
- (ロ) 標高は 60m。
- (ハ) 奈良の大仏を作るとき、ここから銅を産出したという。
- (ニ) また、山の姿が大仏が寝ているように見えるからともいう。

9. つぎにあげる世古は、それぞれ下記のどの由来によるといわれていますか。考えられる由来を記号で答えなさい。() は世古の存在する場所、存在した場所を示します。

回答群 (イ) 寺社名
(ハ) 人名

(ロ) 職業・会社名
(ニ) 地名

(65) 法住院世古 (浦口)

(66) 河崎世古 (常磐)

(67) 主馬殿世古 (曾禰)

(68) 妙見乃世古 (尾上)

(69) 鉦屋世古 (常磐)

(70) 吃驚世古 (岩淵)

10. この地の習俗に関するつぎの説明の中に一つずつ間違いがあります。それはどれですか。記号で答えなさい。

(71) 注連縄

- (イ) 注連縄は2種類あって、その一つは細長い綱に垂をはさんだ軒下飾りである。
(ロ) いま一つは、門符やユズなどをつけた門飾りである。
(ハ) 門符には、故事に因んで厄除けの文字や来福の文字が書かれる。
(ニ) この地域では、軒下飾りと門飾り両方を架けたまま1年間を過ごす。

(72) 伊勢の伝統的な町家のスタイル

- (イ) 張り出し南張り囲い (ロ) 軒雁木板
(ハ) 刻み囲い (ニ) なまこ壁

11. つぎの伊勢で使われる短文は、回答群（イ）～（ニ）のいずれかで構成されています。それぞれ回答欄のどのかたちの文ですか。

回答群 （イ）人物（前）－動作（後） （ロ）動物（前）－作業（後）
 （ハ）食物（前）－数量（後） （ニ）事物（前）－状態（後）

（73）くちなわをいける

（74）ごっつお一をようけもろた

（75）このごろのからかみはやにこい

（76）おいぼしを肩うまする

（77）おじゃみをふっちにする

12. 伊勢のまちづくりを振りかえると、20年に一度のご遷宮の時期と重ねて進められたことが多い。大きなイベントの実施も同様であるが、つぎの事業やイベントは、いつのご遷宮と重ねて進められましたか。回答群の記号で答えなさい。

回答群 (イ) 第58回ご遷宮：昭和4年 (ロ) 第59回ご遷宮：昭和28年
(ハ) 第60回ご遷宮：昭和48年 (ニ) 第61回ご遷宮：平成5年

(78) 神都博覧会

(79) 国道23号（通称南勢バイパス）の開通

(80) 神宮美術館の開館

(81) 第1回神宮奉納花火大会

(82) お伊勢博覧会

(83) 参宮急行電鉄の開通

(84) おかげ横丁のオープン

13. 伊勢の交通と商業の変遷に関して述べたつぎの文章を読んで、()に入れる適切な地名、施設名をそれぞれ回答群から選び、記号で答えなさい。

宮川の上の渡しと下の渡しで山田へ入った街道は、(85)で交わり、八日市場をへて外宮に至る。外宮前からは、岡本、古市をへて内宮前に至った。この骨格をなす参宮街道から、両側にたくさんの世古が伸びているが、これは街の培養線ともいえるべきであろう。(85)から分かれた浦之橋通りは、世古の行き先から江戸期に(86)とも呼ばれた。

鉄道が開通すると、人の流れは徐々に駅を中心としたものになっていき、太平洋戦争前には、盛り場として(87)が、小売商業地として(88)がそれぞれ山田の中心地を形成した。この流れは戦後も変わらず、盛り場の中心は裏手へ移ったが、新道は小売商業地として再生した。昭和40年代になると、伊勢市駅前に(89)などの大型店が出店、駅前が小売商業の中心地となった。

その後、モータリゼーションの進展に合わせて、昭和50年、国道23号が海側に開通すると、ロードサイドへ専門店、飲食店が徐々に出店、昭和56年の(90)の開店は、中心商業地の移動を明確にした。このあと、市街地の空洞化が徐々に進み、最近では高齢者の日常生活に齟齬をきたすまでになっている。

- | | | | |
|----------------|-----------|------------|-------------|
| (85) (イ) 二俣 | (ロ) 筋向橋 | (ハ) 中島 | (ニ) 堤世古 |
| (86) (イ) 大世古 | (ロ) 竹内世古 | (ハ) 中世古 | (ニ) 河崎世古 |
| (87) (イ) 昭和通り | (ロ) 新道通り | (ハ) 高柳通り | (ニ) 桜通り |
| (88) (イ) 昭和通り | (ロ) 新道通り | (ハ) 高柳通り | (ニ) 桜通り |
| (89) (イ) ジャスコ | (ロ) アサヤ | (ハ) ダイカイ | (ニ) ミスタージョン |
| (90) (イ) 新ジャスコ | (ロ) ララパーク | (ハ) みそのベリー | (ニ) ヤマダ電器 |

14. この地域の道路網に関する説明のうち、それぞれ間違った文が一つずつあります。それはどれですか。記号で答えなさい。

(91) 伊勢自動車道

- (イ) 通称伊勢自動車道は、正式には近畿自動車道関伊勢線という。
- (ロ) 高速自動車国道法による規制がある。
- (ハ) 昭和 50 年、関、久居間が開通、順次延長され、平成 5 年伊勢まで開通した。
- (ニ) 延長部分の伊勢二見鳥羽ラインは平成 6 年に開通した。これも高速自動車道路である。

(92) 旧 23 号線

- (イ) 東京から伊勢に至る道路が大正 9 年に国道 1 号線に指定された。
- (ロ) 国道 1 号線のうち、四日市市日永から内宮前までが、昭和 27 年に国道 23 号線となった。
- (ハ) 戦後、三重県国道改良促進期成同盟が結成され、その中で、旧伊勢電鉄の軌道敷（櫛田川・宮川間）を国道として整備することが決まった。
- (ニ) 昭和 28 年末、櫛田橋・度会橋間 10.6km が全国で 2 番目の有料道路として開通した。

(93) 御幸道路

- (イ) 外宮と内宮を結ぶ約 5.5km の道路で、明治 43 年に開通した。
- (ロ) 天皇陛下の行幸時の参拝路で、別名、御成街道と呼ばれる。
- (ハ) 道路の途中、徴古館入口付近に立つ大鳥居は、故松下幸之助氏が寄贈した。
- (ニ) 街路の桜、楓などは御木本幸吉氏が献木したものである。

(94) 伊勢道路

- (イ) 宇治館町と志摩市磯部町川辺とを結ぶ 15.2km の道路である。
- (ロ) 古くから志摩の物産を伊勢へ運ぶルートとして利用され、逢坂越えと呼ばれた。
- (ハ) 五十鈴トンネルと志摩路トンネルを掘削して、昭和 40 年に開通し、当初は有料であったが、平成 5 年ご遷宮の年に無料になった。
- (ニ) 島路川の溪谷にそうため、春秋は樹木が美しい観光道路である。

(95) 伊勢志摩スカイライン

- (イ) 宇治館町から朝熊山頂を経て鳥羽市鳥羽に至る自動車道路である。
- (ロ) 昭和 39 年、三重県観光開発株式会社により開通した。
- (ハ) 山上は雄大なスケールの展望をもち、また、金剛證寺がある。
- (ニ) かつては有料であったが、今は無料開放された。

15. 郷土の自然と暮らしの中で生まれ、受け継がれてきた伝統性のある工芸品を保護育成しようと、三重県では、平成 6 年に、「三重県指定伝統工芸品」を定めました。これにより、当時の二見町の「伊勢鎌」、伊勢市の「伊勢一刀彫」「伊勢の神殿」「伊勢玩具」「提灯」「伊勢の根付」「伊勢春慶」「伊勢紙」が指定を受けましたが、「伊勢鎌」は後継者がなく、現在残されていません。つぎの文は、それぞれについて説明を加えたものですが、一つずつ間違いがあります。それはどれですか。記号で答えなさい。

(96) 伊勢一刀彫

- (イ) 神宮の宮大工が片手間に作り出したのが始まりといわれる。
- (ロ) 神宮の建材の端材が原料で作られてきた。
- (ハ) 元を辿ると、伊勢の根付とは、別系統に至る。
- (ニ) 昭和前期に、伝統工芸品として復活した。

(97) 伊勢玩具

- (イ) 「おかげ参り」で参拝者の急増した文政から天保ころに、刳物職人が、道中の慰みにと考案したのが最初といわれる。材料のサルスベリやチシャなどは、神路山などで容易に手に入った。
- (ロ) 伊勢玩具は、大きく分けて、刳物、練物、竹製品の 3 種類がある。
- (ハ) 戦前には、玩具の業者が、お盆などの日用雑貨品も作っていた。
- (ニ) 現在では、刳物玩具として、けん玉、ダルマ落とし、獅子頭などが作られている。

(98) 浅沓

- (イ) 神宮の神官の履物で、紙製漆塗り。
- (ロ) 江戸期以来、久田家が代々その技術を継承してきたが、現在は西沢氏が唯一の継承者である。
- (ハ) 型づくりから仕上げまで一貫して製作される。
- (ニ) 型作りは紙による「一貫張り」である。

(99) 根付

- (イ) 根付とは、手に乗るほどの小さな彫刻で、和服を着ていた日本人が、巾着、煙草入などを帯に吊るす際の留め具として利用された。
- (ロ) 参宮の土産物として、無事に帰ると縁起をかついだ蛙の根付が知られている。
- (ハ) 名人として知られる「中村良記」の名は、5代まで受け継がれている。
- (ニ) 明治以後、その価値を知った好事家の西洋人が好んで収集した。

(100) 伊勢春慶

- (イ) 江戸期から、昭和中期まで、伊勢を代表する地場産品として、大量に生産された。
- (ロ) その特徴は、ベンガラや柿渋で下塗りをして透明漆をかけた木目の見える素朴さが売りであった。
- (ハ) 戦後、樹脂製品が普及すると、その扱いの難しさから敬遠されるようになったが、途絶えずに今日に至った。
- (ニ) 最近、河崎商人館の隣に、春慶工房ができ、伝統の器に加え、現代の暮らしに合うものが商品化されている。